

令和6年度 いのちの授業 事例集（小学校）【社会】

掲載数

61

地区	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 川崎市	小6	社会	戦争と人々の暮らし	「戦争と人々の暮らし」の学習を通して、多くの国民が戦地に送られることになったこと、金属資源確保のために町中の金属が回収されたこと、町を歩けば戦争へと駆り立てる看板がたくさんあったこと等から、戦争が国民に与えた影響について考えた。また、副教材として扱った映画「火垂るの墓」の事例から、戦争のために失われていく命について考えた。最初は自分事として考えていなかった児童も、「今、日本で戦争が起きたら」と自分事としてかけがえのないいのちについて考えることができた。	火垂るの墓（静止画）
2 川崎市	小6	社会	戦争と私たちの暮らし	日本が資源を求めて中国と戦い、その戦争がアジア・太平洋に広がっていった経緯や、戦争によって人々の暮らしがどのように変化したかを調べ、日本が戦った戦争がどのようなものだったのかを考え理解させる。戦争の被害が国内にも及び、大人も子どもも多くの日本の国民が、辛く厳しい生活を強いられたことや国内の数多くの場所で大きな被害を受け、多くの命を失ったこと、今なお後遺症などによって苦しんでいる人がいることを知り、二度を戦争を繰り返してはいけないと伝えていくことが大切だと気づき、これから先の未来へ自分たちにできることを考えさせる。	小学社会6 教育出版 戦争体験者の話
3 川崎市	小4	社会	自然災害にそなえるまちづくり	「川崎市は大きな地震に備えて、どのようなことをしているのか」を調べる学習をした。川崎市には多くの工場があるため、地震が起きた場合、火災などの被害に繋がりやすい。また人口も多く、たくさんの人を安全に避難させる必要がある。児童たちは、川崎では断水に備え、給水拠点を整備していることや、街中に避難所の位置をわかりやすく示している看板があることを調べていた。授業の中で、自分や家族の命を守るために、自分たちの避難所となる学校を調べておこうという思いをもった児童もいた。	
4 川崎市	小3	社会	火事からまちを守る	火災が起こると消防だけでなく、警察をはじめ多くの人々が協力して消火活動にあたっていることを知り驚いた様子だった。火災を経験している児童はいなかったが、避難訓練の経験から実際に火災になった場合、どのように行動すれば良いかイメージをもっている児童は多かった。 消防署では火災がない時でも訓練をしたり、道具を点検したりしていることを知った。学習の最後には消防署の方に来ていただき、消防体験を行った。消防服の重さを体験したり、体験談を聞いたりして、火事の恐ろしさを再確認した。自分たちも絶対に火事を起こさないようにするという意識は高まった。	消防署の職員による消防体験

5	川崎市	小3	社会	火事からまちを守る	社会科で、消防士は火事や災害から人々を守る大切な仕事であり、火を消すだけでなく、地震や台風などのときも助けに来てくれることについて調べた。私たちが安全に暮らすためには、防災について学び、準備することが大切であることに気づいた。子どもたちは、「火事が起きたらどう逃げるか」「避難するときに気をつけること」について考えた。「お・か・し・も」を守ることや、煙を吸わないようにする工夫が大事だと気づいていた。また、家でも避難経路を確認したり、消火器の使い方を知っておくことが必要だと話し合った。消防の仕事を知ること、防災の意識が高まり、いざというときに落ち着いて行動できることの大切さを学んだ。	社会の教科書
6	川崎市	小3	社会	「火事から町を守る」地域で行われている防災活動と実践的な訓練活動について	消防署などの関係機関が地域の人々と協力して火災などの防止に努めていることを理解するために、地域で行われている防災活動について資料から読み取ったり、宮前区役所危機管理担当、土橋町内会、RISK WATCHによる防災啓発と実践的な訓練活動の出前授業を受講したりした。火災時に、火と煙から身を守る方法（ストップドロップ&ロールやグレートエスケープ）を実践することで、自分に火が燃え移ったときの対処方法や家が火事になったときの逃げ方について理解することができた。「自分はもちろん、家族にも今日習った方法を伝えたい」「自分たちが伝えていくことが、町を守ることにつながる」という考えをもつ児童もいた。	講師 ・宮前区役所危機管理担当 ・土橋町内会長 ・RISK WATCH
7	相模原市	小3	社会	ファイヤースクール	もしも、自分たちの身近な所で火災が起きてしまったとき、どのような行動をとればいいのか。相模原南消防署の方々にお越しいただき、スモーク体験や、119番の通報体験、消火器体験などの様々な体験を通じて自分の命の守り方を知る。さらに消防署の方からの講話を聴き火災に対する怖さを知ったうえで、自分たちにできる予防や対策について考えていけるようにする。	講師 相模原南消防所の方々
8	相模原市	小4	社会	自然災がいにもそなえるまちづくり	体育館で学年全体で身の回りで起きる災害や対策について講師の話聞き学んだ。それをもとに大雨や地震が起こったときに、どのような備えや行動をしたらよいかを調べ、まとめた。それをもとにハザードマップやマイタイムラインを作成した。	講師は、市役所地域振興課の職員
9	相模原市	小3	社会	「事故や事件からまちを守る」	社会科の学習で、警察の仕事について自分たちで調べたり、地域を歩いて、交通事故を防ぐために施設がどこにあるのかを調べた。地域の様々な場所に、自分たちの安全を守ってくれる施設があることを知り、その種類、数の多さに児童はとても驚いていた。また、登下校を見守ってくれる、学童通学安全指導員の方から仕事の内容や、どんな気持ちで活動を行っているのか直接話を聞くことができた。地域の方の思いを知り、自分達ができることは何かを考え、実践していきたいという気持ちを持つことができた。	学童通学安全指導員
10	相模原市	小6	社会	戦争と人々の暮らし	太平洋戦争の学習を通して、東京大空襲や広島原子爆弾、長崎の原子爆弾、沖縄戦で多くの国民が命を落としたことを学習した。また、そのような過去があるからこそ、現代では一人ひとりの人権が保障され、平和で安全に暮らすことができることを指導した。これからは自分たちの命は尊いもので大切にすることが必要であると改めて児童が考える機会になった。	教育出版 社会科6年教科書

11	相模原市	小6	社会	身分制度と人権	江戸時代の身分制度の学習において、全国民の何割が武士で…という内容を予想する。武士、町人、百姓と割合を考えていく中で、すべてを合わせても100%にならないことに気づく。百姓や町人の身分にもされなかった人たちの存在について考える。身分制度が改められても、改善されることはなく、現代にまで続いていることを伝えた。	
12	相模原市	小3	社会	火事から町を守る。	社会科「火事から町を守る」の学習を深めるために「ファイヤースクール」を行った。火事の現場の説明を聞くと驚く様子が見られ、どうやれば自分の命やみんなの命を守れるかを考えた。実際に転がって火を消す練習、水消火器の訓練、煙の中から逃げ出す方法、通報の体験などを通して、思っている以上に火事の現場では気が動転してしまうことを実感できた。日常生活（火災報知器）にも意識が向き、その後の学習で命を守るための防災設備や避難経路など、自分たちで見つけ始めた。	講師は近くの消防団の方々、消防署の職員。テキストは、「ファイヤースクール」相模原消防局
13	相模原市	小3	社会	社会・防災教育「ファイヤースクール」	火事の主な原因は何か、火事が起きたときにはどんな行動をするべきかなど、実際に消防署の職員に来ていただき、お話いただいた。その後、児童は、煙体験や110番電話体験をした。煙が充満した中では、ほとんど周りが見えず、壁をつたいながらでないと歩くことが難しいこと、きちんとハンカチで口・鼻を覆わないと苦しくなってしまうことを身をもって感じた。体験後に行われた避難訓練では、その学びを活かして、口・鼻をハンカチできちんと覆い、かがみ、壁を触りながら移動する様子が見受けられた。	講師は消防署の職員にお願いし、講話・体験合わせて2時間行った。
14	相模原市	小4	社会	自然災害にそなえるまちづくり	様々な自然災害について、過去の事例をもとに災害について知り、被害を最小限にする備えや、市や地域の取り組みについて学んだ。自分でできる災害への備えを考えたり、命を守るための皇后について考えることができた。	教育出版 防災ハンドブック 相模原市HP
15	相模原市	小3	社会	地域の安全を守る「火事からまちを守る」	私たちは毎日元気に楽しく暮らしたいと願う一方で、火事や交通事故など恐ろしい災害にいつあうか分からない。自分の命は自分で守る方法や、119番通報の仕方、消防署、消防設備、消防団について学習をした。特に、相模原消防署の方々を講師とした「ファイヤースクール」では実際に消防士の人が気を付けていることや火事から命を守るための工夫を教えていただいた。また、119番通報、煙で充満している部屋に実際に入ってみる、消火器の使い方を学び、実際に水を的に当てるなどの体験も行った。子どもたちは主体的に学習に取り組み、今後の日常生活に活かそうとする様子が見られた。	相模原消防署の職員 社会の教科書 副読本さがみはら
16	相模原市	小3	社会	「火事からまちを守る」	火事からまちを守るために、どのような工夫があるかを単元を通して考えた。学習活動では、学校の消防設備や校外学習で自分のまちの消防設備を調査することで、さまざまな消防設備があることと、おかれている消防設備と場所にも工夫があることに気づく様子が見られた。単元の終わりには、ファイヤースクールを実施し、消防署の方の話を聞いて学習した。消火器の扱い方や119番通報の仕方、煙の中を移動する体験などを通し、自分の命を守るための行動を実践した。体験をする中で、煙で前が見えない怖さを体感したり、119番通報するときに住所を伝える必要があることを学んだりする姿が見られた。	講師は、消防署の職員。

17	相模原市	小3	社会	火事から町を守る 消防士	消防士の方に来ていただき、火事が起きたときの消防士の働きについての講義や様々な模擬体験をすることができた。それまでの学習で学んだこととつなげながら、火事が起きたときのしくみや消防士の働きなどを、実際に働いている人の話を聞くことができた。また、様々な体験を行い、火事が起きた時の大変さや、119番通報の体験を通して、火事が起きた時にすべきことを実際に知ることができ、自分の身を守るための意識が高まった。	
18	相模原市	小3	社会	「地域の安全を守る」	消防と警察が協力して命や財産を守る業務をしていることを教科書や参考資料、消防署見学などから知り、理解した。地域を守る活動に自主的に参加する人々の思いも知り、それに応えようとする気持ちが生まれ、自分の命や体を大切にしようとする意識がより高まった。	教育出版 「小学3社会」 相模原市教育委員会 「さがみはら」
19	相模原市	小3	社会	防災教室 「自分で自分の身を守る子どもになる!!」	火災の知識などを習得し、火災の危険から身を守る能力を高めることを目的として、ファイヤースクールを実施した。 内容 ①火災の話 ②119番通報体験 ③煙中避難体験 ④水消火器体験 ⑤質疑応答	講師 ・相模原消防署大沼分署 ・消防団
20	横須賀市	小3	社会	地いきの安全を守る	消防や警察の仕事を知り、火災、事故、事件などから、自分やまちの安全を守るために大切なことについて話しあった。危険な場所や注意することを確認しあい、まちの安全を守るための心がけや行動について、家庭でも話をする機会を設けていただき、意識を高めるようにした。	
21	横須賀市	小4	社会	自然災害にそなえるまちづくり	社会「自然災害にそなえるまちづくり」では、自分たちのまちや身近な人々（家族）を思いながら学習課題を立ち上げた。「自分たちの命、大切な人の命を守るために自分たちができることを考えよう」と様々な視点から調べ学習を行った。授業で調べる中で、「ぼくたちだけが知っているけど…」と発信する立場になって考え、授業参観では親子と一緒に防災グッズを作成する活動を取り入れた。「自助・共助」について考える際には当事者意識を持って学習に取り組み、「海辺にいるおばあちゃんに知らせなきゃ」等と学習したことをすぐに活用しようとする児童の姿が沢山見られた。	学校司書と連携し、防災トイレに関する学習した。
22	横須賀市	小4	社会	命を守るために	自助・共助・公助という言葉からその役割と大切さを学んだ。自助は、自分の命は自分で守ること。共助は、学校や地域で助け合って守ること。公助は、市や県、国などによる助け。この3助の役割が果たされることで、大地震の被害を最小限にすることができることを理解した。 この学習を通して、子どもたちは命を守るための取り組みや備えがあることを知り、非常時でも自分たちにできることをやっていたと感じていた。	

23	横須賀市	小3	社会	「火事からまちを守る」	消防士の方に来校してもらい、火事の怖さについて学習した。新潟の工場で起きた火災で、非常口までたどり着かずに亡くなった方がいたという話から、避難経路を知る大切さを子どもたちは知ることができた。学校の非常口を確認し、出先でも施設などの非常口は知っておいた方がよいことが分かった。また、実際に火事が起きたら、パニックになること、停電も起き真っ暗になるかもしれないことなど、避難することの難しさを学んだ。火災の話から命の大切さを学習することができた。	横須賀市消防局の方
24	湘南三浦	小4	社会	自然災害に備えて	「阪神淡路大震災」に関する動画を鑑賞し、子どもの気づきから学習を始めた。被害状況を詳しく調べ、普段の生活を送る中で、どのような防災対策をすればいいのかを考えた。道徳では、被災者や亡くなられた遺族の思いを考え、「復興」の意味を話し合った。また、避難所生活を送ることになった場合のシュミレーションをした。その時にどのような状況で、どのような困り感があるのか予想した。それに対してどう対策をするのかをグループで考えて発表をし、全体で共有した。今後、自分にできる防災対策を考えまとめた。	道徳 「神戸のふっこうは、ぼくらの手で」 社会 「自然災害にそなえるまちづくり」 国語 「もしものときにそなえよう」
25	湘南三浦	小4	社会	自然災害にそなえるまちづくり	鎌倉市の災害への備えについて話を聞いた。児童は、①災害時のリスクを知る ②天気等の情報を収集する ③いざという時の避難場所を確認する、この3つが命を守る上で大切であると教えてもらった。また、市の備えとしてトイレトレーナーや屋内シャワーキット等があり、他市とも連携を結んでいることも学んだ。学校の敷地内にある防災倉庫の中にある物を見たり、校庭の下にある飲料水水槽の仕組みを説明してもらったり、初めて知ったことに驚きが見られた。様々なことの発見の中で、自分の生活を振り返り、災害は備えをすることで被害を軽減できる、家の人と相談して防災計画を立てたい、安全に行動できるように考えたいなど防災に目を向けた意見が出た。	講師は、鎌倉市役所総合防災課の職員
26	湘南三浦	小6	社会	歴史	近代の日本において、日清戦争・日露戦争をはじめとする様々な戦争を行ってきた歴史を学習した。戦争に関係している諸国の時代背景を考慮しながら、戦争を行った目的や利益、損失や被害について学んだ。また、それらの戦時中の死者の数や国民の生活にも着目し、戦争の悲惨さを感じた。戦争を繰り返したことに疑問を感じる児童や世界から戦争がなくなることを願う児童がいた。	教科書（教育出版） 社会科資料集 映像教材
27	湘南三浦	小4	社会	防災講話 「自分の命は自分で守る」	前半見た災害時のDVDは、視覚的に子どもが集中でき、食い入るように見ている児童がいた。後半は普段見ることができない、校内に常備している防災用具を見せてもらい、子どもたちは初めて知ることが多く、とても驚いていた。プールの水など、濾過器を用いて飲料水に使うことや、簡易トイレを見ることで、より災害を身近に感じることができたように思う。職員の方の話を、こちらが用意したメモ用紙にまとめ、振り返りをするときの参考資料にした。	講師 「藤沢市危機管理課」の職員 映像を交えた内容で、具体的に理解できた。

28	湘南三浦	小3	社会	地域の安全を守る	地域の安全を守るための諸活動について、自分たちの生活と関連付けて学んだ。また、防災・防犯などにはどのような機関が関わっているかを調べ、見学したり、校内の防災・防犯設備等を確認したりして、学校や地域で災害が起きた際にどのように避難すれば良いかをグループで考え、クラス全体で共有した。そして、自分の命は自分で守るということを意識させるようにした。	藤沢南消防署 藤沢警察署
29	湘南三浦	小4	社会	自然災害にそなえるまちづくり	自然災害に備え、自宅、学校、地域ではどのように備えているのか学習した。住んでいる地域により予想される災害の種類や避難場所が違うことを知り、自分の命は自分で守るためにどんなことができるのか考えた。また、学校にある防災倉庫にはどんなものが備えられているのか実際に見て知ることができた。学校用務員が災害時には避難所開設に携わり、地域の人々の安全のために活動することも知った。	講師：学校用務員。校地内設置の防災倉庫を見学し、具体的に知ることができた。 藤沢市ハザードマップ
30	湘南三浦	小6	社会	戦争と人々の暮らし	戦時中の暮らしを写真や動画などの資料を通して学んだ。戦時中は同じ年齢の子どもたちが戦争に協力をしたり、親元を離れて生活をしたりする事実に驚いた様子であった。また、授業が終了後の振り返りでは、「戦争は二度と起こしてはならない」「これまでは、日本が被害にあった面しか知らなかったが、多くの命を奪っている面もあるという事を知れた」などこれからの平和への願いや世界各国が起こした過ちを知れたようであった。	戦時中の写真・動画
31	湘南三浦	小4	社会	防災教育	社会の授業で災害のおそろしさや、それらにそなえるために何をしているかを学んだ。起震車で大きな地震の揺れを体験することができた。災害（主に地震について授業では取り扱う）が起こった場合にそなえて日頃からしておくべきことを考えた。また、ニュース等で頻繁に耳にした『命を守る行動』とはどのような行動なのかを話し合いながら、藤沢防災ナビを用いて事前の備えなど災害への心構えについて考えた。	講師の方 藤沢市危機管理課 起震車体験を通して地震などの災害への心構えについて学んだ。
32	湘南三浦	小4	社会	自然災害に備えるまちづくり	総合防災センターで起震体験や火災、消火体験、風害体験を通して、災害にあった時の命を守る行動や災害への備えを知り、自然災害から自分の命を守る自助の大切さを考えさせた。	神奈川県総合防災センター
33	湘南三浦	小4	社会	自然災害にそなえるまちづくり	3.11東日本大震災の様子やその際に起きた大津波の様子を視聴した。その様子を見て、多くの命が自然災害によって奪われる可能性があることを認識した。そして、自分や家族、地域のひとの命を守るため、自分ができていることを考えた。例えば、家族で避難経路の確認をしたり、家の防災グッズをそろえたり、地域のハザードマップを確認したりした。	社会教科書 【自然災害にそなえるまちづくり】

34	湘南三浦	小4	社会	「人々の暮らしをよくするために尽力した人物」	社会科で扱う「昔から今へと続くまちづくり」という単元の中で、人々の暮らしを豊かにするために尽力した人物についての学習を行った。人々の生活が十分に豊かではなかったり、食料の確保、病気の蔓延などに苦労したりしている中で、個人でありながらその改善のために力を尽くした人たちがいることを、教科書に登場した人物を中心に紹介した。児童の多くは、一人の人の力や行動で世の中が変わったり、その恩恵が今に続いていることを初めて知って驚いていた。自分が志した職業や興味を持った分野を究めて人々の役に立ったことに関して、自分の将来を想像したり、何で役に立てるかと考えたりする様子も見られた。	教育出版「小学社会4」・県小学校社会科参考図書「わたしたちの神奈川県」使用。
35	湘南三浦	小3	社会	食育	社会科の単元『農家の仕事』の中で、給食に食材を提供している地元の農家の方々と協力し、野菜の栽培・収穫を体験した。その後自分たちが収穫した野菜を給食の中で食べた。	ヒロシファーム
36	湘南三浦	小5	社会	社会 「米づくりのさかんな地域」	本校の近くで活動している援農ボランティア団体に協力をしていただき、自然環境保全を目的とした活動内容を教わった。その中で休耕田を復元したり、ホタルが見られる環境を保つなど、貴重な話を伺うことができた。本校周辺とは違った風景の谷戸に行き、実際の自然を感じたことにより、関心をもって話を聞いていた。それ以降の授業でも、農業を続けていくことの大変さや、生態系を保つことの大切さについて発言する児童もみられた。	地域のボランティア団体
37	湘南三浦	小4	社会	自然災害にそなえるまちづくり	大きな地震を経験、見聞きしたことのない児童たちに、過去の地震を調べることで、自分たちの地域では地震が繰り返し起こってきたこと、地震は広い範囲にかけて発生することを知り、地震の怖さについて考えさせた。そこから、大きい地震は人の「いのち」にも関わってくることを意識することができた。「このようにいつ起こるかわからない大きな地震に備えて、どうやって備えればよいのか。」と問題意識を高め、地域の取り組みを調べたり、自分のできる取り組みを考えたりした。	
38	湘南三浦	小6	社会	戦争と教育	太平洋戦争中の日本の教育が、人の命、個人の尊重により国の利益を優先していたことを伝えた。今の世の中の違いを考え、改めて一人ひとりの意思、命、意見が大切であることを学んだ。	
39	湘南三浦	小3	社会	暮らしを守る人たち	社会科で、豊かに暮らしていける環境を作るために、自分たちの町の生活を守ってくれている警察署、消防署で働く人々の考えや仕事の様子を学んだ。また、その学習を通して、「いのち」を尊重する心を学ぶとともに、自ら「いのち」を守るための行動についても、防災訓練等を生かしながら学ぶことができた。	消防署職員

40	湘南三浦	小4	社会	防災教育「地震からいのちを守る」	いつ起こるか分からない地震について、各機関の備えと活動を知るとともに、いのちを守るために自分たちができることについて話し合った。 「岩手県釜石市～命を守る防災教育～」の動画を見て、「想定にとられるな」「最善を尽くせ」「率先避難者たれ」という避難の三原則を知り、災害のときこそ自分の命、他の命を大切にしたいという感想を書いた児童もいた。	動画「岩手県釜石市～命を守る防災教育（東京防災救急協会）」
41	湘南三浦	小3	社会	「地域の安全を守る」	消防署・警察署見学も含め、「消防」「警察」のしくみやそこで働く人たちの仕事について学習した。学習を通して、地域の安全は「消防」「警察」に携わる人たち、さらに地域の人々によって守られていること。また、今後自分たちも社会の一員として、地域の安全を守る役割を担っていかなければならないことを学んだ。	茅ヶ崎警察署 西久保駐在所 茅ヶ崎消防署
42	湘南三浦	小6	社会	歴史 戦時中の日本	戦時中、学校で「戦争は正しいもの」として扱われ、戦争に参加する準備を子ども達は教えられていた。そして青年になると、国から赤紙が届き戦争に参加する。行きたくないけど行くしかない、生きて戻ってこられないかもしれない。国のために命を使うことが良いこととされていた時代について、今の憲法と比較しながら考えた。	社会の教科書 資料集
43	湘南三浦	小4	社会	地震にそなえるまちづくり	地震に対して市や地域、学校、家庭でどのような備えをしているか、日頃からどんな備えが必要か学習した。単元の導入で、家庭や学校での備えを調べ、校庭の防災倉庫から疑問をもち、地域ではどんな備えをしているのか調べるという課題を設定した。その際に講師として、三浦市役所防災危機対策室の職員を招聘し、三浦市では災害に備え、どのような取り組みを行っているのか、防災計画や防災会議、県や他地域、企業との連携等、公助を中心に話を聞いた。子どもたちからは、三浦市が災害に備えて様々な取り組みを行っていることを知るとともに、共助や自助の大切さも感じる事ができたというような感想が聞かれた。	講師は、三浦市役所防災危機対策室職員  三浦市地域防災計画を事前の読み、教材研究を行った。
44	県央	小3	社会	社会科「地域の安全を守る（火事からまちを守る）」	火災が起こった時にどのようなしくみで連携をとりながら消火活動が行われるのかについて調べたり考えたりした。単元終末では、実際に地域の消防署見学に行った。施設見学の他、火事が起こった時の消防士の方の具体的な動きについて、また、学習過程で生まれたその他の多くの疑問に答えていただいた。署員の方の地域の安全を守るための思いに触れ、命を守るために様々な人や組織が連携し合い、仕組みが整えられていることをさらに深く理解することができた。	地域の消防署の署員の方々 「わたしたちの厚木」
45	県央	小4	社会	防災教育	地震や津波などの自然災害に備え、自助、共助、公助などの大切さを学び、命を守るためには日頃からの備えが必要だということを考えていた。	

46	県央	小4	社会	地震からくらしを守る	<p>本授業では、地震が発生時の話や被害にあった場所の写真から、地震が発生するとどんな被害が出るかについて考えた。学びを通して、命を大切にすることをねらいとした。導入では、教科書の被害にあった場所の写真から、地震の恐ろしさについて考えた。その後、地震が発生した時の話を読み、地震が発生するとどうなるのかについて考え学んだ。終末では、「地震が発生すると様々な被害があり、命の危険にさらされる。」「自分の命は自分で守る。」という考えをもたせることができた。</p>	4年 小学社会4 (東京書籍)
47	県央	小4	社会	地震に備えるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然災害に備えるまちづくりのための施設見学を通して、「命をまもるため」の実践的な行動や知識などについて具体的に学んだ。</li> <li>・災害が起こると、どのような危険があるのかを考え、その際に、命を守るための具体的な方法などについて、映像や写真、テキストを用いて学習した。</li> <li>・シアターや展示物の見学、地震体験コーナーなどを通して、命を守るための実践的な行動や知識を学び、日頃の意識向上につなげることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海老名市防災学習テキスト</li> <li>・神奈川県総合防災センター見学</li> </ul>
48	県央	小4	社会	自然災害にそなえるまちづくり	<p>自分達の身の回りで起こっている自然災害について考えさせる中で、自分の命は自分で守らなければならないことを再確認した。今年度に関内外の自然災害の動画を視聴することで、実際の有事で、どのように命を守るのかを具体的に考えた。生命の唯一性を再認識するとともに、命を守るための行動の必要性、皆に支えられて命を守る「公助・共助」についても理解を深める機会となった。</p>	ニュース・動画
49	県央	小4	社会	地震にそなえるまちづくり	<p>単元の導入の際に、これから起こると予想される大地震や、その揺れ方、被害予想などについてまとめたスライドを用いた。児童からは「こんな大きな地震が起こるとは思っていなかった」「地震は怖い」「起きたらどうしよう」など、今まで以上に危機感をもつ様々な反応が見られた。身をより安全に守るための取り組みについて考える際には、自分たちに実践できることについて話し合い、日頃からの備えだけではなく、市が発信している情報から事前に危険箇所を把握しておくこと、さらには自分で判断して行動することなどが自分の命を守ることに繋がると感じている様子だった。</p>	座間市防災パンフレット
50	県央	小5	社会	自然災害・防災	<p>東日本大震災等の実例をもとに、日本で起こりうる災害とその災害から命を守るための準備等について学んだ。また、地域によって災害の様相が変わることや自分にできることを考えることで、命を身近に感じることに繋がった。</p>	
51	中	小4	社会	防災教育「地震からいのちを守る」	<p>社会科「自然災害にそなえるまちづくり」の学習の第一歩(導入)として、約百年前に起こった関東大震災による被害の写真を見たり、起震車で地震の揺れを体験したりして、自然災害の恐ろしさを学んだ。また、平塚市災害対策課の職員の方の話を聞き、自然災害に備えていのちを守るために家具や家電製品を固定することの大切さや非常時に必要な水や食料、持ち出し品について教えてもらい、自分たちの家庭で何をすべきなのかを多くの児童が考えていた。</p>	

52	中	小6	社会	平塚大空襲	終戦から70年以上が経過し風化する戦争の悲惨さを、平塚空襲体験者の話により子どもたちに伝え、当時の状況や戦争の恐ろしさを知ってもらうとともに、平和の尊さ、大切さを再認識してもらうために、資料や実物を使ってお話ししていただいた。児童は、自分の慣れ親しんだ地域の70年前の様子を聞き、驚く様子が見られた。また、戦争は二度としてはいけないことを強く実感し、命を大切にしていきたいと振り返っていた。	
53	中	小4	社会	防災教育	社会科「地震にそなえる町づくり」の学習のまとめとして、平塚市災害対策課から2人の講師をお招きし講話をしていただいた。”自らの命を守ること”を一つのテーマとし、今後起こりうる災害に対して具体的に「身の守り方」「災害発生後の身の振り方」を教えていただいた。起震車体験では、実際に過去に起きた地震を再現し、地震の怖さだけでなく、具体的な揺れ方や揺れの長さなどの特性という部分も学ぶことができた。地震の怖さを知ること、改めて自分のいのちを守るということについて向き合い、考える有意義な時間になった。	
54	中	小4	社会	自分事で考え行動しよう！「自然災害にそなえるまちづくり」	児童にとっては、経験はしていないが、身近な場所での災害である「東日本大震災3.11」の映像を実際に視聴することから学習を始めた。より身近にひそむ自然災害の脅威を感じ、自分の命は自分で守り、災害への備えの大切さを学んだ。災害時の設営の仕方の体験をしたり、備蓄倉庫の中を見学したりして、自然災害にそなえるまちづくりが、自分や家族の命を守ることに繋がっていることを学ぶことができた。	
55	中	小4	社会	防災教育 「自然災害にそなえるまちづくり」	学校敷地内にある「防災備蓄倉庫」の中を見学した。災害に備え、避難所開設のために必要なものが、整然と分かりやすく置かれていることに、子どもたちは驚いた様子だった。さらに11月には、校外学習として防災センターに行き、地震や風水などの体験をし、命を守るための行動について学んだ。	
56	中	小4	社会	防災教育	本校の4年生は大きな災害を知らず、大地震や自然災害、避難所生活というものは、映像などでも見る機会は少なく、想像することも難しい。今回は、実際に大地震が来たら部屋の中がどうなってしまうのかわかる映像や、台風や大雨などで起こりうる洪水・土砂災害に関するハザードマップなどを使って、災害についての説明をしていただいた。実際に学校が避難場所になったときに使う段ボールベットの体験や、配布される食料備蓄庫の見学もした。自分の地域にどんな危険があるのか、学校にはどんな備えがあるのか、興味をもって話を聞く姿が見られた。また、自分の家の持ち出しバックについて、調べてくる児童もいた。	伊勢原市危機管理課の職員 危機管理課の方で準備していただいた、スライドや動画の資料、ハザードマップなどを使っての説明。
57	中	小5	社会	水産業の盛んな地域 これからの食糧生産	5年生の社会科の学習において、漁業組合の人に来ていただき、話をしていただいた。皆が普段食べている魚はどうやって漁獲され、その後売られ、給食に出ているのか理解をすることができた。その中で、道徳の教材「お母さんへの手紙」も活用し、皆が食べているいのち（動植物）にもいのちの繋がりがああり、そのいのちを頂いていることを話し合った。	

58	県西	小3	社会	消防署見学	社会科にて消防署見学に行き、消防士がどんな気持ちで火の中に飛び込んでいくのか、どういった心持ちで仕事をしているのか実際の言葉で聞くことができた。自分の命を大切にすることが自分が大切と思っている人たちに対しての感謝の気持ちにもなるということ学ぶことができた。	
59	県西	小4	社会	地震にそなえるまちづくり 昔から今へとつづくまちづくり	4年生の社会科では小田原や千代が昔どんな場所だったかを調べ、まちづくりに貢献した人を学ぶ活動がある。 自分たちが今住んでいるところは、昔は田んぼが多くあった土地だったことを知り、そこから現在、住宅やショッピングモールなどが建ち、生活様式も大きく変化していることを学んだ。 この学習を通して、自分たちのまちの歴史をとおして、脈々と受け継がれてきたものを感じ取り、命の連続性を感じる子もいた。 また、同様に「地震にそなえるまちづくり」を学習し、命を守るための行動や建物、市の政策などを学習した。	小田原市役所  パワーポイントを使って写真を見せてもらったり、質疑応答の時間を設けていただいたりして、学習を深めることができた。
60	県西	小5	社会	東日本大震災と情報	「東日本大震災」を題材に、情報と自然災害の複合単元を計画した。 初めに、大震災で亡くなった人数を示した。子供たちはその数の多さに驚きつつも、亡くなった方の理由の多くが津波によるものであることを知った。子供たちから「亡くなる人を一人でも減らすために、情報とどう向き合えばよいか？」という学習問題が挙げられた。そこで陸前高田市役所で最後まで呼びかけを続けた方の話、石巻日日新聞社の手書きの新聞記事、津波から逃げる釜石中学校の行動などを紹介した。資料を吟味して話し合うことで、子供たちは防災・減災への意識を高めることができた。	【参考資料】 ☆東日本大震災に関する新聞記事 ☆手書きの新聞記事の写真（石巻日日新聞社）
61	県西	小4	社会	自然災害にそなえるまちづくり	自然災害にはどのようなものがあり、それらから地域の安全を守るためにどのような対策や活動（防災）が行われているのかについて学んだ。災害体験（地震、火事、暴風）や見学（防災倉庫）、講話を通し、防災は誰かが行ってくれるものに頼るだけではなく、家庭や自分自身が備えておくことが大切であると知り、どのようなものを準備しておく必要があるのか、災害があったときにどのように行動するのかなど自分ごととして真剣に考えた。国語科との複合単元とし、考えた内容を意見文にまとめて発表した。	教育出版 小学社会4 光村図書 国語4下 【講師】 相日防災、小田原市防災対策課、連合自治会 【校外学習】 神奈川県総合防災センター